



鉧路市民協だより

第64号

発行 鉧路市体育協会
平成25年3月31日

鉧路市民貢献賞(10/5)

張江悌治氏(鉧路市体育協会会長)受賞



平成24年度の鉧路市民貢献賞(社会部門)は、鉧路市体育協会張江悌治会長の受賞が決定し、昨年10月5日に鉧路市議会議場で授賞式が行われました。

市民貢献賞は、農林業、水産業、商工業、観光業等、産業の発展に貢献したと認められるものに与えられる産業部門と、地方自治、教育、住民活動、社会福祉、保健衛生、環境等の分野で市民生活の向上に著しく貢献したものに与えられる社会部門の二つがあり、張江会長は、後者に該当いたしました。

鉧路市体育協会は、4人の副会長による発起人会を立ち上げ、11月20日、鉧路全日空ホテルで受賞祝賀会を開催いたしました。

祝賀会当日は、鉧路市長・鉧路市議会議長はじめ鉧路市体育協会加盟団体代表等約150名が出席しました。

発起人代表である栗林副会長の挨拶のあと、横地副会長が、鉧路地方陸上競技協会会長、鉧路管内ソフトボール協会会長、市体育協会会長などを歴任してきた張江会長の永年にわたるスポーツの普及振興や更生保護活動での功績について紹介しました。

引き続き来賓の蝦名大也市長並びに黒木満市議会議長から心のこもった祝辞が寄せられました。

張江悌治会長は「スポーツに魅せられ、立派な先達に恵まれた」と振り返り、座右の銘である「モモクリ3年、カキ8年、ダルマは9年でオレー生」の言葉で締めくくり、今後への意欲を新たにされるなか、祝賀の宴は終始温かい雰囲気で行われました。

鉧路市スポーツ賞(10/10)

故吹越明德氏(鉧路アイスホッケー連盟副会長)受賞



昭和55年に鉧路アイスホッケー連盟の役員に就任以来、競技運営において卓越した手腕を発揮されました。たんちょう国体、くしろ湿原国体、くしろサッポロ氷雪国体をはじめ、数々の

大会を成功に導かれました。平成19年からは副会長として、豊かな経験、適切な判断力、強靱な実行力をもって責務を全うし、「氷都くしろ」の確立に力を尽くされました。

また、北海道アイスホッケー連盟、日本アイスホッケー連盟においても要職を歴任され、長野冬

季オリンピックやアジア冬季競技大会等の国際大会に競技委員として従事したほか、女子世界選手権大会の日本代表チーム団長を務めるなど、数多くの事業に献身的に取り組みられ、北海道はもとより日本アイスホッケー界の発展に大きな足跡を残されました。

さらに、青少年の指導にも力を注ぎ、日本リーグやアジアリーグで活躍する多くの選手を育成し、「アイスホッケー王国・鉧路」の実現に尽力されるなど、今日の鉧路アイスホッケー界の隆盛の礎を築き上げられ、本市のスポーツの普及振興に多大なる貢献をされました。

社会貢献活動 (11/11・12/16)

赤い羽根共同募金活動

継続事業である赤い羽根共同募金活動への協力は、社会貢献活動として今年で3年目を迎えました。湿原の風アリーナ釧路で開催された釧路地区小学生秋季バドミントン選手権大会と、釧路アイスアリーナで開催されたアイスホッケーアジアリーグ「日本製紙クレインズvs王子イーグルス」戦で実施されました。張江会長はじめ、理事ら多数の役員が正面玄関に陣取り、応援や観戦に訪れた市民に協力を求めました。バドミントン会場ではトランポリン少年団員やその保護者たちも活動に加わりました。一方、アイスホッケー会場では王子のマスコットキャラクター「鷲斗^{しゅうと}」君が参加して彩りを添えました。

2日間で26,696円もの善意が寄せられ、12月17日に釧路市共同募金委員会へお届けいたしました。



釧路市長・市議会へ (12/26)

体育施設の補修・備品整備要請

釧路市体育協会は、新年度予算編成に向け、市内社会体育施設の補修改善・備品整備等の充実を求める要望書をまとめ、蝦名市長と月田市議会副議長に特段のご配慮を要請しました。加盟14団体から上がった51項目の要望を盛り込んだ重点項目は、①湿原の風アリーナ釧路の施設・備品等の整備、②大規模運動公園内体育施設の計画的な補修と更新、③社会体育施設の緊急性・安全性を踏まえた早期補修・改善の3点。各競技団体からの体育施設の要望一覧も合わせて提出しました。

当日は張江会長はじめ北村、横地、足立副会長ら5名が出席。張江会長は、競技ルール改正への対応や全国・全道規模大会の釧路市開催に触れ、「大会運営を効率よく進めるためにもぜひお願いしたい。」と熱意を込めて述べました。



各連絡協議会の事業

東北北海道体育団体連絡協議会 (10/20)

総会・競技会視察・情報交流会

十勝管内、帯広市、根室管内、釧路市の体育協会の役員で構成される東北北海道体育団体連絡協議会が、釧路プリンスホテルで開催されました。

各地区の体育協会の活動状況等、スポーツ情報を共有することで一層の連携強化を目指すこの協議会は、昭和53年に発足し、担当地区持ち回りで回を重ねてきております。

総会では、情報誌の発行、体育施設の整備状況、スポーツイベント等、各協会の多彩な取り組みが紹介されました。その後、会場を移し、湿原の風アリーナ釧路で開催中の「第34回北海道トランポリン競技選手権大会」を見学しました。元北海道チャンピオン田野有一氏の競技解説を受けながら、出場選手のハイレベルな技を堪能しました。



釧路管内体育協会連絡協議会 (11/9～10)

役職員等研修会

釧路管内8市町村の各体育協会で開催する釧路管内体育協会連絡協議会は弟子屈町で「役職員等研修会」を開催しました。

管内のスポーツの振興と連携強化を目的とするこの研修会に、管内各体育協会の役員ら30名が参加し、事例研究や実技演習を熱心に受講しました。

1日目は、弟子屈町文化スポーツ少年団本部長であり同町陸上少年団代表の黒萩徳樹氏から「弟子屈町陸上少年団～みんなに支えられて～」と題した講演をいただき、望ましい少年団の運営や指導の在り方について学びました。2日目は、齋藤陽平氏を講師にお招きし、「太極拳」の実技指導を受けました。ゆったりとした動作ながらも、多くの参加者は日頃の運動不足を実感した様子でした。



住民の健康づくりを目指して

釧路市体育協会阿寒支部 事務局 北村 幸三



阿寒支部の前身である阿寒町体育協会は、昭和47年7月に設立し、合併を経て、現在13団体約740名で活動を行っています。

本年度の主な事業として、阿寒町ソフトボール協会との共催で6月4日から7月25日までの21日間、第14回阿寒町ナイターリーグソフトボール大会を開催し、阿寒町地区をはじめ、音別地区・釧路地区からのチームも参加し、12チーム194名が、交流や親睦を深めるとともに、健康の増進と技術の向上を図ることを目的に、熱戦が繰り広げられました。

また、8月1日から8月24日までの7日間、2012年トーナメントソフトボール大会も開催し、12チーム190名が参加し、盛会裏に終了することができました。

阿寒支部では、今後もより多くの住民が参加でき、スポーツに親しめる環境を整備するとともに、関係団体との連携を図りながらスポーツの推進を通して、市民の健康づくりを図っていきたくと考えています。

町内対抗競技大会

釧路市体育協会音別支部 事務局 佐藤 卓



連日寒い日が続く中、1月17日に当支部による町内対抗カーリング大会が開催されました。

町内対抗競技大会とは、音別町を5地区に分けた地区対抗の競技会で、年間にカーリング、パークゴルフ、ミニバレー、軽スポーツの計4種目の大会を開催しています。町内対抗カーリング大会の当日は、平日の夜の開催にも関わらず愛好者だけでなく日頃カーリングをしない方にも参加していただき、-10度を下回る気温の中でしたが、皆汗をかきながらゲームを楽しんでおり、あまり運動をしない方にとって運動をする良い機会になったようでした。

しかし、長年続いてきた町内対抗競技大会も人口の減少等から年々参加者人数が減っているため、体育委員との協議を重ね内容の見直しを図り、平成25年度から地区割り、開催時間の変更を行い、今後の方向を模索しています。

今後も当支部では地域住民にスポーツを親しむ機会を提供し、地域のスポーツ振興に努めていきたいと考えています。

柔道で心身を鍛えよう

釧路柔道連盟 会長 菅原 賢司



柔道は、明治15年、嘉納治五郎師範によって考案され現在に至っています。加納師範は、柔道修行の目的を、心身の力を最も有効に

使用する原理と、それを実生活に生かすことにより、人間と社会の進歩と発展に貢献することを「精力善用・自他共栄」と表し、柔道を通して健全な人間形成を目標にし、内に相手を思いやる心を、外に礼節を重んじる精神を指導され、自己完成をめざす「道」として継承されています。現在、釧路柔道連盟では、釧路管内に35団体、幼児から一般まで586名の会員がおり、日々稽古に励んでいます。少年団では、基本的柔道指導法を学んだ指導者や経験豊富な有段者が指導に当たり、近年の怪我や過激な指導に対する問題にも細心の注意をはらい取り組んでいます。柔道は、「危険なもの」とわれがちですが、正しい基本を習得することにより柔道の魅力に触れることが出来ると思います。

また、文部科学省では、体育授業に武道を取り入れ、その必要性に着目しており、一人でも多くの方が興味を持っていただければと思っています。

釧路地方弓道連盟の現況

釧路地方弓道連盟 会長 和田 信幸



平成21年11月に60周年を迎えた当連盟は、かつて太平洋炭鉱全盛の頃の祭典時には屋外で弓を引くなど一般の方々目に触れる機会

にも恵まれ会員の増加に繋がっておりましたが、その後、道場は鶴ヶ岱武道館2階弓道場のみとなりました。会員増加と弓道普及を目指し、初心者弓道教室を鶴ヶ岱武道館完成時の昭和60年から毎年開催しております。今年度、試験的に夜間の部も実施した結果、3名が受講。昼間の部を含め少人数ながらも計6名の弓道人口が増えたこととなります。現在の会員数は、一般76名、大学生35名、高校生158名、中学生1名、合計270名。一般の部の段位取得状況は、教士7段1名、教士6段2名、錬士6段1名、錬士5段5名、5段12名、4段7名、参段17名、式段10名、初段7名、他14名。一般の部には古くから続けている愛弓家の方々の他、半数は弓道教室の卒業生です。

弓道の最高目標は『真善美』にあり、意味を正しく理解し奥深い弓道の修練を重ねつつ、成長の証しとして段級審査を受審するなど、誰もが継続して楽しんで引いているところです。

(文責: 橋本勢津子)

氷都：くしろの冬季体育祭

5種目のウィンタースポーツに 2,500人が出場

総合開会式

第67回釧路市冬季体育祭の総合開会式が12月6日夜、釧路市生涯学習センターで開かれ、集まった100名の選手らが健闘を誓い合いました。

開会式では、昨年の覇者がそれぞれ優勝杯を返還。大会長代理の藤沢隆司生涯学習部長は「市民に冬季スポーツが根付いていることは誇らしい。大会を通じて交流の輪を広げてほしい」と期待を寄せました。さらに、大会委員長の張江体育協会会長からは、「少子化で競技者の減少が心配される冬季スポーツであるが、皆さんが先兵となって宣伝し支えてほしい」とのエールが送られました。

その後、選手団を代表して釧路カーリング協会所属トップスピンの蘭幡憲二選手の力強い選手宣誓がなされました。



各競技大会の様子

アイスホッケー (12月12日～1月21日)

1部から9部までの98チームが出場。釧路アイスアリーナはじめとする市内各リンクで40日に亘る熱戦が繰り広げられました。



カーリング (2月2日～3日)

10チーム40人が柳町アイスホッケー場に集合。華やかなフォームでストーンを自在に操り、ハイレベルなゲーム展開となりました。



長靴アイスホッケー (2月23日・3月2日)

柳町アイスホッケー場で10チームが出場。158名の参加選手中、女性は29名。スピード感あふれる試合が展開されました。



スキー (3月10日)

小中学生から高齢者までの幅広い選手層が阿寒ロイヤルバレイに集合。仮装した選手のパフォーマンスなど、楽しい競技会となりました。



フィギュア (3月16日～17日)

春採アイスアリーナでは、A～Eクラスの園児から高校生、そして、成年選手の合計33名が華やかなスケートイングを披露しました



祝 創立60周年 全釧路剣道連盟

全釧路剣道連盟（栗林延次会長）は、11月10日に創立60周年の記念式典を開催しました。

同連盟は1952年（昭和27年）に「釧路撓競技連盟」を吸収発展させて発足。以来60年、国内有数の名選手を輩出するなど、地域の剣道の発展とともに確実な歩みを続けてきました。栗林会長は、「わが国の伝統と文化に培われた剣道を正しく伝承し、さらなる発展のために頑張っていきたい」と式辞を述べました。功労者を代表して安田泰也

全60周年記念式典祝賀会



顧問は「感謝状を頂き、身に余る思い。与えてくれた皆様に感謝」と語り、連盟の更なる発展に期待を込めました。

スポーツは私たちに喜びをもたらす、夢中にさせ、感動を呼び起してくれる。成功や失敗、達成と挫折、競争と共同、喜びと悲しみなど、まさに人間として生きることの直接的な機会を与えてくれる▼森喜朗氏著「ノーサイドの心」には次のような表現がある。「フェアプレイとは、己の心の良心に従ってプレーすること人としてどう生きるか、というモラルの根幹でもある」▼フェアプレイには、行動と心の二つの面がある。行動の面のフェアプレイとは、まずルールを守ること。相手を尊重し、全力を尽くすこと。勝っておごらず、負けてくさらず。誰が見ても善いと思われたい行為をさす▼もう一つは、心の面のフェアプレイ精神である。自分の考えや行動について善か悪かを自分の意志で決めることができ、自分自身に問いかけたとき恥ずかしくない判断ができることをさす▼スポーツをする。試合をする。そこには、自分自身の努力がある。チームメイトと築いた信頼がある。支えてくれる方々への感謝がある。私たちはフェアプレイをはじめスポーツからたくさんのお礼を学び育てられてきた▼フェアプレイを広げていくための具体的な行動として、「あくしゅ＝あいさつ＝ありがとう」の三つがある。まずは大人の私たちが、スポーツをはじめ日常生活の中へ積極的にこれを浸透させていきたいものである▼フェアプレイは子供や若者を成長させる。彼らの周りの人や地域を元気づける。そして、きっとこの釧路市を元気にする力になれると信じる。

編集後記

